

第10回大崎市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和5年3月16日(木) 14時00分～15時42分

2 開催場所 大崎市図書館 多目的ホール

3 参加者

(1) 構成員

大崎市長 伊藤康志
教育委員会 教育長 熊野充利
教育長職務代理者 青沼陽一
教育委員 若見朝子
教育委員 佐藤寛
教育委員 堀智恵子
教育委員 早坂正年

(2) 事務局

副市長 尾松智

教育部：部長 宮川亨，参事 田中政弘，参事兼教育総務課長 小野寺晴紀，学校教育課長 大場宏昭，生涯学習課長 古内康悦，文化財課長 横山一也，地域交流センター長 中川早苗，大崎市図書館長 高橋誠明，学校教育課副参事 畑中智，教育総務課長補佐 久本裕

民生部：子育て支援課長 大石淳，健康推進課長 佐々木康之

産業経済部：部長 寺田洋一，世界農業遺産推進課長補佐 太田雅俊

市民協働推進部：部長 伊藤文子，政策課長 高橋直樹，まちづくり推進課長 中鉢豊，政策課長補佐 由利英樹，政策課主幹兼係長 千田和弘，政策課主事 佐々木麻衣

(3) 傍聴者 5名

4 協議事項

第1号 「大崎市教育の振興に関する大綱」の改定(最終案)について

5 その他

- (1) 児童館・放課後児童クラブ運営の民間委託について
- (2) ひきこもり・不登校支援について
- (3) 世界農業遺産「大崎耕土」を活かした人材育成の取組状況について
- (4) 陸羽東線の利活用促進について

6 会議資料

- 資料1-1 パブリックコメントの実施状況について
- 資料1-2 「大崎市教育の振興に関する大綱(最終案)」
- 資料2 放課後児童クラブの業務委託について
- 資料3 大崎市ひきこもり・不登校支援プラットフォーム
- 資料4 世界農業遺産「大崎耕土」を活かした人材育成の取組状況について
- 資料5 陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書(概要)

7 会議の概要

- ・事務局の進行により開会
- ・市長から開会のあいさつ
- ・市長が座長となり会議を進行

協議事項

第1号 「大崎市教育の振興に関する大綱」の改定（最終案）について

【資料に基づき説明】（資料1-1, 1-2）

- 市長**：委員の皆様からご意見、ご感想なども含めてご発言いただきたい。
- 青沼教育長職務代理者**：パブリックコメントはどのようにして行ったのか。
- 政策課長**：ウェブサイト上での掲載及び回答受付、教育委員会を含めた各庁舎での閲覧及び回答受付を行った。
- 青沼教育長職務代理者**：資料1-1の7番の意見に対する考え方において「子どもとともに成長するための学びを支援する」とある。子育て支援課や生涯学習課で行っている事業、その他様々にあるかと思うが、家庭教育を支援するために、同じようなことをバラバラに行うのではなく、各課で行っている事業の連携をしながら、具体的方策を講じていただきたい。一本化しようとは言わないが、連携できるポイントを見つけ、お互いに協調しながらやっていただくようお願いしたい。教育を考えていくと、家庭教育は基本である。様々な事情でなかなか学ぶ機会がない方や忙しさの中で子育て中の父母がいることから、具体的な方法で拾い上げるということをしていただきたい。就学前までの時期でもう一度家庭教育の大切さをリスキリングし、確認をしてもらうことが必要ではないかと考える。そうすることで、学校にいつてからも様々なことを思い出していただけるのではないかと思う。
- 宮川部長**：小学校の低学年では、授業中の立ち歩きや児童館における暴力等の問題行動の報告が増加している。その点に関し新型コロナウイルス感染症の影響であると言う先生方も一部いるが、就学前の時期に学校では教わらないルールやマナーなど様々な事柄を学ぶ家庭の教育の力の弱まりを感じてきていることから、そういったところを研究している。

また、教育委員会については、5月8日から本庁舎に移転することから、これまで以上に民生部との連携を図りながら具体的な方策や未来を担う子供たちの健やかな育成について、事業を模索してまいりたい。
- 若見委員**：基本目標2「子どもの育つ権利を確保するため」は結構重い言葉と受け止めている。子どもの権利とはなにか、どのようにその権利を尊重していくのかというときに、大変悩む。子どもは育つ環境によって変わっていくことから、家庭教育であれば妊娠期から、妊婦健診のお母さん方にもアプローチしていくべきだと思う。自分がどのように子どもを育てていかなければならないのか、どのように子どもにごはんを食べさせていくのか、そこからスタートしていかなければ、「子どもたちの権利」とは言えないのではないかと考える。

子どもたちの居場所が学校ではなくなっているように感じており、フリースクール等に行き、観察している。この子のお母さんはどのような方なのか、どのように育てているのか、現場を見たり、子どもたちと話さないと分からないことが多い。我々が子

どもたちに近づいて話を聞き、自分たちの肌でそれを感じる事が大事だと思う。多様な学びの場、安心できる居場所、これらが子どもたちの成長にとって重要ではないかと思う。児童館についても水面下で物凄いことが起きていると思われる。もっともっと子どもたちの育つ権利を考え、大崎市がどのような子どもたちを育てていきたいのか、具体的に各課が一丸となりやるべき時期なのではないかと思う。

○**教育部長**：保護者たちの教育が必要となると委員の発言により、さらに強く思ったところ。今後も家庭教育に力を入れ、民生部とともに検討しながら各種事業を推進してまいりたい。

○**子育て支援課長**：保育所の現場でも20年前頃から子どもたちだけを見れば良いというところから、親も含めて支援していかなければならない状況が現在まで続いている。学校現場においても同じような状況となっていると思われることから、子どもの権利の前提としての親の子育てについて民生部と教育委員会双方に協力しながら、支援していく必要があると感じている。

○**伊藤市長**：来年度から教育委員会も新庁舎へ移転となり、物理的距離も縮まることから、政策的、実務的な連携を一層行っていきたい。

○**佐藤委員**：教育の大綱及びパブリックコメントの意見に対する大崎市の考え方は、この通りで良いと思う。現状でも保育所、幼稚園、小学校、中学校の教育も十分とは難しいが、なされている。考え方は多様であり、多様性を強調しましょうという、社会的に一般的な意見と異なる場合もあるかもしれない。その兼ね合いや度合いは難しいところもあるが、今のところ、そのような考えで教育がされているように感じている。

○**堀委員**：基本目標を含め、細やかに対応されており、良いものができたと思う。家庭教育ということを考えると、この細やかさをどのような方法で市民に伝えられるかが行政の腕の見せ所ではないかと思う。家庭教育といっても、我々の頃とは異なり、男女平等で働け働けという号令をかけられ、朝、保育園や学校に送り出すのも大変な状態。子どもたちは親の時間サイクルに合わせてへとへとに疲れ切ってしまう。親ももちろん疲れている。たった30年から40年の間で核家族が叫ばれて、小さな単位で暮らすことを好ましく思い、憧れを抱いてやってきたものの、子育てについては夫婦のどちらも未経験で、誰に助けを求めればよいのか、どのような形でやれば良いのか、誰もそこにアドバイスできる人がいない状況である。学校でも家庭訪問の時に家庭の様子を見てきたはずが、それすらもなくなり、どんな環境でその子が育っているかということもつかむことができなくなっている。子育て支援課もどちらかというと金銭的・家庭環境的にマイナスの要因を持っているところには一生懸命に目を向けるところがあるが、普通の家庭でも、何か求めれば応えてもらえるような子育てのサポートをする場面をいろんなところに盛り込んでいただきたい。一昔前はもっと保健師が子育てに深く入り込んでいたイメージがあるが、このような場面がぐっと減少してしまった。元に戻すものでもないと思うが、これだけ困っている人がいるのであれば、新しい支援をしていってほしい。

スポーツに関しては、部活動のあり方が大きく変わろうとしている。昔は必ず運動しなさいといったものが、なんとなくそれを言うてはいけないような風潮が出てきて、スポーツはレクリエーションや楽しみ、息抜きという捉え方になってきたが、一生健康でいるためのツールであるということをもっとうたって、市民が健康でいられる大崎市というのを念頭に入れながら考えていただきたい。

- 生涯学習課長：子育て支援と家庭教育支援は今まで縦割りのような形で進められてきたところもある。横の連携をとりながら、できるだけ早い段階から家庭教育の支援をできるように事業を展開してまいりたい。部活動の地域移行に絡めたスポーツ振興については、スポーツを一度経験していれば、年齢が重ねてからも戻りやすいというケースもあるかと思うが、高齢になるまでまるっきり経験していなかった方はなかなか新たに手を出すことが難しかったりする場合もある。このようなことから広い範囲でスポーツを振興していけるよう、様々な施策で対応してまいりたい。また、中学生の部活動の地域移行なども、そういった場を確保するとともに、経済的な格差によるスポーツに接する機会の格差などへも視点を置きながら進めてまいりたい。
- 早坂委員：基本方針、基本目標ともに、様々な方の意見や考え方が入り、バランスがとれた良い意見になったと思う。これをどのように具体的に実行していくのかというのがこれから問われていくのかと思っている。個人的な考え方として、素晴らしい目標である一方、大人の価値観の塊になってしまっているというのも若干あるのではないかと考える。子どもたちを守るはずが縛ってしまうということに、気を付けなければいけないと思う。特に大崎市は大崎耕土を含め、自然豊かであるため、泥んこになり、すり傷をつくりながら遊び、時には喧嘩して帰ってくるという田舎の良さは失われてほしくない。大人はディフェンスでどうすれば自分の身を守れるかということを中心に教えてしまいが、そのような時代を乗り越えてきたからこそ、自分が一番に行動する勇気みたいなものを子どもたちに大人がどのように教えていくのかというのが大きな課題と感じている。この基本方針、基本目標を実行していく際には、言葉にとらわれすぎず、子どもたちが伸び伸び育つような判断をして、事業に生かしていただきたい。
- 熊野教育長：大綱を検討する中で、教育委員会内部からも意見を出していただきながら、まとめ上げてきた。大きな柱になるが、あまり細かすぎても施策展開で大変になるだろうということもあった。たくさんのパブリックコメント等で貴重なご意見をいただいたことを本当にありがたいと思っている。子どもたちに目を向けると、ここ2、3年はコロナの影響を大きく受けてきたという実感がある。みんなと一緒に、ものを見つめながら行う本来の教育活動がかなり大きく制限されたことも事実である。学校を訪問させていただく中で、休み時間になると校庭に出て元気に走り回る姿を見ると本当にうれしくなる。子どもは学校という集団を通して揉まれたり、人の意見を聞いて考えを直したり、時にはすり傷したりとケガを乗り越えながら成長をしていくんだろうと思う。各学校様々な違いがあり、特色を出しながら教育活動にあたっているが、子どもに向き合う先生方もしっかりと取り組んでいるなどという印象を受ける。一頃前まではひしめく50代ということで年配の教員が多かったが、最近では平均年齢が下がり、学校の中では初任者の割合も高くなってきたことから変化が生じていることが分かる。それに合わせて、情報化を含め社会も大きく変化している。また、核家族化と言われて久しいが、家庭のあり方も変わってきている。そのような変化を見定めながら子どものより良い成長に向けて、施策展開の中でしっかりと取り組んでまいりたい。
- 伊藤市長：委員皆様方からご意見をちょうだいした。大綱に基づいた施策や運用連携で実行に移していただきたい。本日の議題である、大崎市教育の振興に関する大綱は事務局案ということで決定することよろしいか。

(了となる。)

その他、以下4点について説明後、意見交換を行った。

- (1) 児童館・放課後児童クラブ運営の民間委託について、子育て支援課長より資料2に基づき説明
- (2) ひきこもり・不登校支援について、健康推進課長より資料3に基づき説明
- (3) 世界農業遺産「大崎耕土」を活かした人材育成の取組状況について、産業経済部長より資料4に基づき説明
- (4) 陸羽東線の利活用促進について、まちづくり推進課長より資料5に基づき説明

【児童館・放課後児童クラブ運営の民間委託について】

○**堀委員**：資料2の2ページ目の一覧を見ると、1,220名の児童がこのようなクラブを利用できるとなっているが、春に落ちてしまったという家庭があり、どういう条件で受からなかったのかという話を聞いている。人数としては十分な受け入れ先があるように見えるが、利用したい人にとってはすべて叶ってはいないということもある。一方で、先ほどから議論になっている家庭教育の点から言うと、朝から夜までずっとコンクリートのようなどころにいて、家族と触れ合うのは夜の少しの時間という現実、このような制度を受けないと本当に仕事をしたり、家庭を回していったりするためには仕方がないことだが、子どもたちからするとどうなのかという歯がゆいような思いで見ている。利用したい人が必ずしも利用できているわけではないということが聞かれるということ意見を意見として言わせていただく。

○**大石課長**：今の利用できなかった方というのは、古川地域の古川第二小学校、古川第四小学校の方と推察される。1年生・2年生の利用が非常に多いため、放課後児童クラブだと午後7時までになっているが、5、6年生であれば一人で帰ることもできる年齢になっていることから、児童館には放課後児童クラブの他に児童館の自由来館という制度があり、通常午後5時まで利用できることになっているため、自由来館を案内させていただいた状況。自由来館ではなく、放課後児童クラブを利用したいという方は今のところ出てきていないということであるため、基本的にはニーズにはマッチしているのではないかと考えている。近年、新1年生の利用が非常に増加している状況であり、核家族等で両親の他に子どもを見る人がいないというのが多くなってきているのは認識している。

○**若見委員**：自由来館を実際に提案された際に、自由来館であれば、そこに子どもが行ったのか、行かないのかチェックするシートはあるのかと聞いたことがあり、その時はありませんと回答いただいた。親の立場として、これからの児童館はただ預かる、安全を確保するといった形ではなくってほしいというのがある。質を高めていっていただけると非常にうれしい。民間でも児童館では幼稚園で預かり保育をするような形で7時まで預かりますというのが、最近ブームになっている。そのようなところと比較すると、1年生であれば午後1時くらいに帰ってきて、7時までの6時間をどのように過ごすのか、ここは教育の質や家庭教育につながる話になるのではないかと思う。

○**子育て支援課長**：現在の体制としては、自由来館の事業についても、何時から来て、何時に帰ったかというのは記録しており、単にフリーで来ているという方は基本的にはい

ないという状況である。活動の内容についても、業務委託により事業者が運営することになるため、その部分については、今後幅が広がっていき、保護者の声を聞きながらの運営になっていくものと考えている。

○**青沼教育長職務代理人**：施設における一人当たりの広さをデータとして出してみると良いのではないかと。掌握する指導員の人数との関係なども含め、データとして持ちながら取り組んでいただきたい。

○**子育て支援課長**：一人当たりの面積は決まっており、定員もその面積に基づいた人数になっている。それぞれの施設の面積や利用定員、4月からの利用人数を把握している。

○**青沼教育長職務代理人**：児童館によってやり方が異なるため、民間委託になったときにどのような人が指導員になるかなど、民間になってもしっかりと押さえていただきたい。

【ひきこもり・不登校支援について】

○**若見委員**：相談窓口を資料のような一覧にさせていただくと、大変分かりやすい。しかし、受付時間が午後4時から午後5時までとなっており、誰を想定した受付時間なのかと疑問に思う。QRコードを読み取れば24時間対応可能な窓口があるなどというようなことがあっても良いのではないかと思う。現状の相談先は新規外来の精神科になると思うが、新規外来は名取にしかなく、そこに集中して予約が取れない状況である。相談するニーズはたくさんあり、それだけ困っている人たちがいるということ認識していただきたい。子供の居場所は子どもが活躍できるような場所であり、活躍を誰かがフォローしてくれるような場所を見出してほしい。

また、説明の中に民生委員や児童委員という話があったが、コロナ禍で全然地域の人の顔が見えていない。子供会活動もなくなってきており、地域の人同士が顔を合わせる機会も減少していることから、相談先が分からない状況になっている。民生委員・児童委員の見える化をしていただけると、安心する場所ができるのではないかと思う。

○**健康推進課長**：相談窓口が分からなかったが、このチラシをきっかけに相談したということで、健康推進課への相談件数も若干増加したと感触として思っている。相談者の立場に立った受付時間の時間帯の設定については、検討してまいりたい。民生委員の顔が見えないというご意見については、令和2年度に民生委員を通じて、ひきこもりが市内にどれだけいるのかという調査を行った結果、182名という結果が出た。しかし、ひきこもりは100人に1人程度だろうと言われていたことから、実際は1,000人くらいのひきこもりが実態としては存在するのではないかと考えられる。1,000人くらいと推定される中で民生委員が182名しか発覚できなかったということは、委員の顔が見えない、認識されていないということの裏返しと考えられることから、民生委員の活動を何らかの形で、見える化していくことが行政としての課題として押さえさせていただく。

○**早坂委員**：相談窓口の件については、現在電話しかない状況だが、メールやFAXでの受付にするなどするだけでも違うのではないかと思った。

【世界農業遺産「大崎耕土」を活かした人材育成の取組状況について】

○**若見委員**：この取組は形になってきて、参加する学校も非常に多く、これを活用して大学に合格している高校の生徒もいる。このように具体的に活用できていることが素晴らしいことだと思っている。今後の課題として、これだけの数の参加校があることから、

さらに教育委員会、生涯学習課、人材バンク、公民館をつないで事業展開をしてほしい。今後は地元の人材を生かした世界農業遺産という形で展開した方が、地元根付いた子どもたちが地元の豊かな自然環境を学ぶことができるのではないかと思います。ぜひ公民館を活用し、地域の高齢者が活躍する場を作っていただけたらうれしい。

○**産業経済部長**：いきものくらぶが今年で10年となり、その成果もかなり出ているのではないかと感じる。学校現場と公民館の連携に視点を置き、顔が見える形というのも含めて、地域とつながって宝を子どもたち、大人たちにきちんと教えていく機会を創出してまいりたい。

○**伊藤市長**：昨日パレットおおさきで、SDGsのシンポジウムがあり、「卒論のテーマにしようと思い、勉強に来た。大変になった。」という親子での参加者がいた。一方で、認知度やつながりが弱いという指摘があったが、確実にこのような意味では関わりが広がりつつあると、大変うれしい思いをした。

○**政策課長**：副読本の事業の開始から3年から4年経過しているということで、多感な時期に地域のことをローカルな視点で紐解き、生物多様性や暮らしをつないだ副読本の存在が少しずつ形になっているのではないかとと思われる。鹿島台商業高等学校の生徒の発表を聞いていても、「大崎耕土」という言葉がすぐ出てくるということに、個人的にはとても感動したとともに、少しずつかもしれないが広がりがあるものだと思った。地道な活動ではあるが、続けていくことで、子どもたちが大学生、社会人になったときにふるさとを振り返る一つの方法、思い出となり、当初の狙いが少しずつ浸透してきていると感じる。

【陸羽東線の利活用促進について】

○**若見委員**：大崎タイムスの高校生タウンミーティングの記事などを楽しみに拝見している。このような題材で、子どもたちが地域について考えるということが、大切であり、学べる場を作っていただけると非常にうれしい。世界農業遺産なども使って、たくさん利用を生み出していただきたい。利活用促進にあたっては、今後も若い子どもたちの意見を取り入れていただきたい。

○**早坂委員**：資料内にある日常・非日常をそれぞれやっていかなければと思う。岩出山高等学校では生徒数が減少しているということで、地域として活性化しようという活動を行っているが、岩出山高等学校がなくなってしまったら、さらに利用客が減少してしまうということで、1つずつ取組を積み重ねていくことも大事だが、一発ホームランも狙っていく必要があると考える。そのような意味で、お客さんが動く1つのコンテンツとしては、聖地巡礼がある。映画のロケ地やアニメの有名なシーンに登場し、ヒットすると、5年から10年くらいお客さんがやってくることから、1発打てればホームランのようなアイデアも出していくのが大事かと思う。また、教育というのはお客さんが動くコンテンツであることから、世界農業遺産ダイヤのようなものを作って、SDGsを絡めて通うようなコンテンツ作りなどについても検討いただきたい。

○**佐藤委員**：農業遺産、陸羽東線利用促進いずれにも共通するが、施設を考えていくことも大切と思う。ある程度の時期にイベントを開催し、仙台や遠方からも人が集まれるような自然のメリットを生かした施設をつくれると良いと思う。

○**堀委員**：友人から夫婦で車窓からの自然を眺めながら、田尻から新庄まで旅行した際に、

とても良かったという話を聞いた。現代は時間を短縮する、いかに時間を効率よく使うことが利口という価値観できたが、何をしたらいいか分からないほど時間がある人が結構いたり、若くても1日忙しく動き回らずにゆっくりと時間を使いたいという人に向けてのイベント的なものがあると喜ばれるものがあると思う。JRに希望したいのは、お手洗いをきれいにしていただきたいという点。抵抗なく利用できる環境整備により、子どもたちの遠足の交通手段にもなりうるのではないか。コスプレイヤーの撮影場所として鳴子温泉が利用されたということも聞いたため、東京駅や上野駅に大崎市の観光ガイドブックにおいて、新幹線、陸羽東線を利用し鳴子温泉までいくというような方法も考えられると思う。

○**青沼教育長職務代理者**：昨日のシンポジウムで鹿島台商業高等学校の生徒たちの発表があったが、SDGsの推進も含めて、参考になると思う。SDGsや世界農業遺産など各課で様々な事業展開がなされる裏で、親たちへも啓発していく、わかってもらおうという活動につながっていく考え方もつと良いと思っている。一発勝負のイベントも良いが、そうではないところで各課の事業の積み重ねによって家庭教育支援、生涯学習につながると意識してやると良いと感じている。

○**伊藤市長**：陸羽東線存続について取りまとめた報告と要望を行う際には、今いただいたご意見も合わせてお伝えしたい。

8 閉会

熊野教育長から閉会のあいさつ

以 上